

《論 文》

幼児の「表現」領域に関する教育課程の日韓比較 —身体表現に着目して—

秋 月 茜・塚 本 未 来
木 本 理 可・神 林 勲

要 旨

日本および大韓民国（以下、韓国とする。）は、学校制度や幼児教育の教育課程における共通部分が多い。日本と韓国の小学校の教育課程の比較により、韓国においては「体育」の教育課程の形骸化がみられ学校体育の充実の重要性が示唆されていた。小学校の前段階である幼稚園の教育課程で身体活動と関わりがある身体表現に着目し、日本の「表現」領域と韓国の「芸術経験」を比較した結果、両国のともに基本的なねらいは類似し、身近な環境と十分に関わることで豊かな感性や自分の考え、感じたことを自由表現できるように教育課程の内容を構成していた。韓国では3～5歳の年齢別に細部内容が例示されていたが、日本は内容について解説はされていたものの何歳でその内容を行うかについては各園に委ねていたという違いが認められた。

キーワード：身体表現、表現、芸術経験、幼稚園

1. 緒言

日本と大韓民国（以下、韓国とする。）の学校制度は、教科構成や教育内容などの教育課程も含めて共通部分が多い。その理由の一つは、1948年に建国した大韓民国が、日本統治時代の教育資源を引継いだことにある（馬居，2011）。韓国では歴史的背景上、日本の教育が大きな影響を与えた（Lee and Koo, 2011）ことによる。もう一つは、建国時の教授要目から9度目の教育課程（日本における教育要領）改定はアメリカの学制を手本とし、当時の教育制度の基盤を構築したこと（Lee and Koo, 2011）である。

例えば、両国ともに学校制度は初等学校（小学校）6年、中学校3年、高等学校3年、大学校（総合大学）を基本にした6-3-3-4制である。教育課程でも、両国ともに社会科がアメリカのSOCIAL STUDIESを手本に設置されるなど、両国の現代の公教育の歴史を顧みても、日本の戦後教育改革と重なる教育政策が認められる。

両国の幼児教育の教育課程についてみると、日本では2006年に幼稚園と保育園の二元化

に一石を投じる策として「認定こども園」制度が始まった(村野, 2011)。背景には、少子化による幼稚園の就園率の減少, 女性の就労による保育所不足などの理由が挙げられる。韓国においても少子化が問題となっている。2012年実施の幼稚園教育課程である「ヌリ課程」では実質的な幼保一元化を図った内容となっている。これらのことから, 日本と韓国の幼児教育についても類似点が多いことが予想される。

日本と韓国の小学校の教育課程の比較を特に「体育」科目に着目して行い, 韓国においては, 「体育」の教育課程の形骸化がみられ, 学校体育の充実の重要性が示唆された(秋月・神林, 2016)。小学校期の前段階である幼稚園の教育課程ではどのような違いがあるのだろうか。日本の保育現場においては研究や実践を通して, 子どもたちの身体活動量そのものの低下や, からだを通してイメージを想起する, からだを使って動きを工夫するといった身体的な表現経験の乏しさが見られる(鈴木ほか, 2002)と報告している。このことから身体表現も身体活動と関わりがあると推察される。身体表現は幼児教育要領の領域「表現」に包摂されている。韓国では「芸術経験」に含まれている。子どもの身体表現経験を豊かにするためにどのような内容で教育課程を施行しているのだろうか。

以上のことより, 本研究では現行の教育課程である日本の幼稚園教育要領のうちの「表現」および幼稚園教育課程「芸術経験」を比較・検討することを目的とした。

2. 方法

日本及び韓国において現行の教育課程(教育要領)を比較した。日本では文部科学省が平成29年に公示した幼稚園教育要領(文部科学省, 2017:引用を示す)であり, 韓国では教育部が示す2015幼稚園教育課程「ヌリ課程」(教育部, 2015:引用を示す)を比較対象とした。韓国の教育課程については筆者自らが翻訳し参考とした。比較項目は以下の通りである。

- ① 領域別の目標(表現及び芸術経験)
- ② 表現及び芸術経験の内容

3. 結果

日本の平成29年公示幼稚園教育要領および韓国の2015幼稚園教育課程「ヌリ課程」における教育要領および教育課程の比較を行った。比較した結果のみ記載し詳細は資料とする。

① 領域別の目標(表現及び芸術経験)(資料1)

全体をみると, 日本は, 日々の生活の中で身近に感じたことについて表現をする力を養うようねらいを定めている。一方で, 韓国はより芸術的な経験に触れたときについての記述が多かった。身体表現に関する記述としては, 韓国では(イ)のみが表現と関係していた。

② 表現及び芸術経験の内容（資料1）

日本は、年齢による内容は定めておらず、各園で編成された教育課程の中で示された内容について活動を通じて学んでいく。韓国は、各年齢において詳細な内容が定められていた。身体表現については、どの年齢においても「芸術的な表現をする」に身体を使った表現の内容が記載されていた。

4. 考察

① 領域別の目標（表現及び芸術経験）

日本の「表現」領域では、自分なりの豊かな感性や自分なりに表現する力を養う創造性を豊かにすることを目的としていた。黒川（2004）は、音楽や造形、劇、舞踊と専門的分野ごとに考えるだけではなく、子どもたちの日々の生活の中に表れたりする、子どもの気持ちや思いを「表現」と捉え、保育者がその表し、表れをあるがままに受け入れ、受容・共感していくことが大切であると述べている。このことから、特別な芸術作品等を鑑賞することによって得られる創造性や表現力よりも子どもたち自身の内面から溢れ出る直感的な気持ちや思いの表現を重要視していると考えられた。

一方、韓国の「芸術経験」では、芸術経験と創意的な表現という目的であった。日本と比較して、「表現する」よりも美しさを感じる、表現する過程を楽しむなど芸術作品の鑑賞から得られる感受性の豊かさの開発・向上を求める文面であった。幼児期には周囲に関心を持ち感覚と身体を使って、見て、聞いて、触って感じることを自然に表現することで芸術的な要素を認識できる基礎能力が発達される時期である（保健福祉部・教育科学技術部，2013）。さらに、この時期の幼児は感じたこと、考え、想像したことを自分だけの創意的な方法で表現する（保健福祉部・教育科学技術部，2013）と補足されていたことから、この領域における基本的なねらいは日本の「表現」領域と類似していることがわかった。

② 表現及び芸術経験の内容

表現の内容（1）は、日々の生活における音楽的要素や美しさを気づき、感じることを示されている。解説によると、「幼児は、生活の中で、身近な人の声や語りかけるような調子の短い歌、園庭の草花の形や色、面白い形の遊具、あるいは心地よい手触りのものなど、様々なものに心を留め、それに触れることの喜びや快感を全身で表す。」とある（文部科学省，2018）。これは、韓国の芸術経験の内容において、すべての年齢の内容カテゴリーにある「美しさを探す」の細部内容に類似していた。「音楽的要素を探索する」の内容解説では、「幼児が自然と周りの環境から聞こえる多様な音や音楽に耳を傾け、反応しながら音と音楽の美しさを構成している音楽的要素を感じ、その特徴を自然に発見し、多様な音と楽器などにこの音楽的要素を探索する能力を養うための内容である（保健福祉部・教育科学技術部，2013）。」とあり、「動きと踊りの要素を探索

する」の内容解説では、「自身や他人の体の動きあるいは自然と周りの事物の様々な動きに注意を傾け反応しながら、動きと踊りの美しさを感じ、美しさを作り出す動きと踊りの要素の特徴を自然に発見し、探索する能力を養うための内容である（保健福祉部・教育科学技術部、2013）。」と記されていた。また、「美術的要素を探索する」の内容解説では、「自然と事物から色や形、質感、空間などの美術的要素を探索する幼児の能力は、自然と事物の美しさを発見し認識できるだけではなく、これを表現し鑑賞できる能力を養う基礎となる（保健福祉部・教育科学技術部、2013）。」とあった。両国ともに、日常生活における身近な音楽的要素や美しさに触れ、感じることを内容に組み込んでおり、韓国では3歳児の時点で「～に関心を持つ」という細部内容であったが、5歳児になると「～を探索する」という、さらに新しく見つけ出す能力を養うことを求めていることがわかった。

表現の内容（4）の解説では、「幼児は、自分なりの表現が他から受け止められる体験を繰り返す中で、安心感や表現の喜びを感じる。これらを基盤として、幼児の思いを音や声、身体の動き、形や色などに託して地上的な行為として表現できるようにすることが大切である。」と記載されていた（文部科学省、2018）。また（6）では、「幼児が思いのままに歌ったり、簡単なリズム楽器を使って遊んだりしてその心地よさを十分に味わうことが、自分の気持ちを込めて表現する楽しさとなり、生活の中で音楽に親しむ態度を育てる。」（文部科学省、2018）となっていた。この2つの内容について韓国では、すべての年齢の内容カテゴリーにある「芸術的な表現をする」の細部内容に類似した文が示されており、特に「音楽で表現する」に記載がされていた。表1の芸術表現における「音楽で表現する」の年齢別内容を見ると、韓国では小学校とのつながりを意識しているためか、内容に系統性を持ち、段階を踏んでいる（教育部、2015:引用を示す）。歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を演奏したり、即興的に歌を作ったりするなどは両国の共通点であった。一方で、韓国では「昔の童謡を楽しく聴く」、「昔の動揺を楽しく歌う」のような愛国心を幼い時期から養うような内容が組み込まれていた。

表1 芸術表現における「音楽で表現する」の年齢別内容

3歳	4歳	5歳
簡単な歌を聴いて行って歌う	歌に自身の考えと感じたことを表現する	
昔の童謡を楽しく聴く	昔の童謡を楽しく歌う	
リズム楽器で簡単なリズムを表現してみる	リズム楽器を演奏してみる	
簡単なリズムと歌を即興的に作ってみる		リズムと歌を即興的に作ってみる

愛国心に関しては日本では明記はされていない。日本に比べて韓国がより愛国心教育に力を注いでいることが幼児の教育課程からうかがえた。

表現内容の（４）や（６）、（８）に含まれる身体表現に関する内容については、解説をみると、幼児は自分が感じたり、考えたりしたことを自分の身体そのものの動きに託したり、音や形、色などを仲立ちにしたりするなどして、自分なりの方法で表現することが多く、歌や楽器の演奏や踊りを楽しむことを好むため、その基盤となる幼児一人一人の発想や素朴な表現を教師側が共感し、受け止めてあげることが大切と記されている。韓国の芸術経験の内容では、身体表現について、内容カテゴリー「芸術的な表現をする」の細部内容に示されている。特に「動きと踊りで表現する」の中に「身体を利用して周辺の動きを自由に表現する」、「動きと踊りで自身の考えと感じたことを表現する」、「道具を活用し多様な動きで表現する」がそれに当てはまると考えられる。この部分の解説では、「幼児が動きに影響を与える形、力、速さ、流れなどのような要素について認識し、これを適切に調和させ運用することで、自身の考えや感じたことをより美しく創意的な動きや踊りで表現してみる内容である。動きと踊りの活動は幼児に豊富な創造の機会を提供し、新しい動作の可能性を発見するようにし、自由な表現を通じて自己表現欲求を充足させるようにする点で価値がある。」としている。両国ともに幼児自身の感じたことや考えを自身の身体を通して表現することを内容に組み込んでいる。加えるならば、日本の表現の身体表現に関する内容よりも韓国の芸術経験の内容がより音楽的要素を含んだ活動となっている。

これらことから、両国ともに幼児の身近な環境と十分に関わることによる豊かな感性や自分の考えや感じたことを自由に自己表現されるよう、教育課程の内容を構成している。また、しかしながら、韓国の教育課程では、３歳・４歳・５歳と年齢別に段階を踏んだ細部内容が記載され、教師が教育課程を見ただけでどのような活動を行うべきか例示が示されていた。一方、日本は一つ一つの内容について細かく解説はされていたものの、何歳でその内容を行うかについては各園に委ねていた。

このほか、日韓の幼稚園の教育課程に関する類似点としては、長・短期間の指導計画を置いていることや教育週数、１日の教育時間、小学校との連携性などが挙げられる（教育部、2015:文部科学省、2017:Lee, 2018）。これは、小学校の体育科教育の比較の際に両国の教育課程が類似していたこととも繋がる（秋月・神林、2016）。

日本の幼稚園教育要領に基づいた「表現」領域の指導の中で、特に身体表現は「自身のレパートリーが少ないので、指導が偏る」、「自分の知識が少なく、なかなか挑戦しようという意欲が持てない」など幼稚園教諭が苦手意識を感じている（多胡、2013）。また、宮下（2012）は身体表現には欠かせないダンスや表現運動の指導に関しても半数近くが「少し難しい」と感じていると報告している。韓国の幼稚園の教師に身体表現領域についての認識など調査した研究（Kim et al, 2008）では、身体表現が重要であり、好きな分野だとしている教諭であっても、身体表現を優先的に遂行することは回避する傾向を見せていると報告している。特に、教諭自身の自信が欠如していることも明らかにしている（Kim et al, 2008）。このように、両国の幼稚園教諭はともに身体表現の指導に対して幼稚園教諭が苦手意識を抱いている。小学校体育科の場合、韓国の教

育課程の形骸化や学校による格差の発生が懸念された(秋月・神林, 2016)。今後はより詳細な現場実態や幼児の体力・運動能力なども併せて調査を行い、両国の身体表現分野の問題や課題を見出し、改善策を考える材料としたい。

5. まとめ

本研究では、日本の幼稚園教育要領のうち「表現」領域および韓国の幼稚園教育課程のうち「芸術経験」領域を比較し、特に身体表現に着目して両国の違いについて検討した。

領域別の目標(表現及び芸術経験)において、日本は日々の生活の中で身近に感じたことについて表現をする力を養うようねらいを定めている。一方で、韓国はより芸術的な経験に触れたときについての記述が多かった。身体表現に関する記述としては、韓国では(イ)のみが表現と関係していた。

またそれらの内容について、日本は年齢による内容は定めておらず、各園で編成された教育課程の中で示された内容について活動を通じて学んでいく。韓国は、各年齢において詳細な内容が定められていた。身体表現については、どの年齢においても「芸術的な表現をする」に身体を使った表現の内容が記載されていた。

両国ともに基本的なねらいは日本の「表現」領域と類似していることがわかった。また、幼児の身近な環境と十分に関わることによる豊かな感性や自分の考えや感じたことを自由に自己表現されるよう、教育課程の内容を構成しているようであった。しかしながら、韓国の教育課程では、3歳・4歳・5歳と年齢別に段階を踏んだ細部内容が記載され、教師が教育課程を見ただけでどのような活動を行うべきか例示が示されていた。一方、日本は一つ一つの内容について解説は細かくされていたものの、全体の内容について示し、何歳でその内容を行うかについては各園に委ねていた。今後はより詳細な現場実態や幼児の体力・運動能力なども併せて調査を行い、両国の身体表現分野の問題や課題を見出し、改善策を考える材料としたい。

参考文献

- 秋月茜・神林勲「韓国と日本における小学校体育科教育課程の比較:体力・運動能力の差異に着目して」『北海道教育大学紀要教育科学編』2016, 67(1), 457-468
- Kim Hee Young・Kim Eun Hee・Park Gyong Hea「The Kindergartens' recognition and experience on the domain of physical expression」『The Korean Journal of the Elementary Physical Education』2008, 13(2), 15-25
- 黒川建一「領域「表現」の意味」『新保育講座11保育内容「表現」』ミネルヴァ書房, 2004, 29-31
- Lee Da Young・Koo Bong Jin「A Comparative Study of Elementary School Physical Education Curriculum between Korea and Japan」『The Society of Korea and Japan Education』2011, 16(1), 87-103
- Lee Sung Han「Comparison of kindergarten curriculum between Korea and Japan: Focused on the

- configuration direction and the comparative analysis of the current kindergarten curriculum』『Korean Journal of the Japan Education』2018, 23(1), 63-82
- 保健福祉部・教育科学技術部『3-5歳年齢別ヌリ課程解説書』中央保育情報センター, 2013, 110-133
- 教育部『幼稚園教育課程』2015
- 文部科学省『幼稚園教育要領』2017
- 宮下恭子「ダンス・身体表現の指導に関する研究—保育者への調査より—」『東京成徳短期大学紀要』2012, 45, 67-77
- 村野敬一郎「就学前教育・保育制度のあり方を考える視点—「幼保一元化」, 「認定こども園」の検討をふまえて—」『宮城学院女子大学発達科学研究』2011, 11, 25-31
- 多胡彩花「「身体表現あそび」の実践状況と実践上の問題点について」『湘北短期大学部研究紀要』2012, 34, 51-73
- 馬居政幸「海外研究情報 韓国の教育事情」『子ども社会研究』2011, 17, 143-169

A comparison of curriculum between Japan and South Korea
regarding the field of expression
—Focusing on body expression—

AKIZUKI Akane
TSUKAMOTO Miku
KIMOTO Rika
KAMBAYASHI Isao

Abstract

There are many common parts in the school system in Japan and Korea. Compared Japan with Korea, the curriculum of “physical education” in Korea seems to become unenforced and it has been suggested a need for enriching the curriculum. In this paper, I focused on “physical expression” of the preschool curriculum which is called “expression” in Japan and “art experience” in Korea. As a result, both curriculum seem to be designed with similar aims, such as to enhance ability to express oneself freely by fully engaging with the environment around children themselves. The Korean curriculum illustrated the details age by age from three to five-years-old children and showed some examples of activities that teachers should carry out. In Japan, however, although the curriculum seems to have detailed descriptions, what teachers actually conduct in class depends on each school.

Keywords: body expression, expression of subject, art experience, preschool

(あきづき あかね 拓殖大学北海道短期大学 保育学科)
(つかもと みく 東海大学 国際文化学部・地域創造学科)
(きもと りか 藤女子大学 人間生活学部)
(かんばやし いさお 北海道教育大学札幌校)

【資料1】

1. 領域別の目標（表現及び芸術経験）

〈日本〉

感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする。

○ねらい

(ア) いろいろなものの美しさなどに対する豊かな感性をもつ。

(イ) 感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ

(ウ) 生活の中でイメージを豊かにし、様々な表現を楽しむ。

〈韓国〉

美しさと芸術に関心を持ち、創意的に表現を楽しむ。

(ア) 自然と生活、芸術から美しさを感じる。

(イ) 芸術を通じて創意的に表現する過程を楽しむ。

(ウ) 自然と多様な芸術作品を鑑賞し、豊富な鑑賞と審美的態度を養う。

2. 表現及び芸術経験の内容

〈日本〉

① 内容

(ア) 生活の中で様々な音、形、色、手触り、動きなどに気付いたり、感じたりするなどして楽しむ。

(イ) 生活の中で美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする。

(ウ) 様々な出来事の中で、感動したことを伝え合う楽しさを味わう。

(エ) 感じたこと、考えたことなどを音や動きなどで表現したり、自由にかいたり、つくったりなどする。

(オ) いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ。

(カ) 音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりなどする楽しさを味わう。

(キ) かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりなどする。

(ク) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。

② 内容の取扱い

上記の取扱いに当たっては、次の事項に留意する必要がある。

(ア) 豊かな感性は、身近な環境と十分に関わる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々な表現することなどを通して養われるようにすること。その際、風の音や雨の音、身近にある草や花の形や色など自然の中にある音、形、色などに気付くようにすること。

(イ) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。

(ウ) 生活経験や発達に応じ、自ら様々な表現を楽しみ、表現する意欲を十分に発揮させることができるように、遊具や用具などを整えたり、様々な素材や表現の仕方に親しんだり、他の幼児の表現に触れられるよう配慮したりし、表現する過程を大切に自己表現を楽しめるように工夫すること。

【資料2】

(韓国)

○3歳

ア. 内容体系

内容カテゴリー	内容
美しさを探す	音楽的要素を探索する
	動きと踊りの要素を探索する
	美術的要素を探索する
芸術的な表現をする	音楽で表現する
	動きと踊りで表現する
	美術活動で表現する
	劇遊びで表現する
	統合的に表現する
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する
	伝統芸術を鑑賞する

イ. 細部内容

内容カテゴリー	内容	細部内容
美しさを探す	音楽的要素を探索する	多様な音、音楽の強弱、速さ、リズムなどに関心を持つ
	動きと踊りの要素を探索する	動きと踊りの形、力、速さなどに関心を持つ
	美術的要素を探索する	自然と事物の色、形、質感などに関心を持つ
芸術的な表現をする	音楽で表現する	簡単な歌を聴いて追って歌う
		昔の童謡を楽しく聴く
		リズム楽器で簡単なリズムを表現してみる
		簡単なリズムと歌を即興的に作ってみる
	動きと踊りで表現する	身体を利用して周辺の動きを自由に表現する
		動きと踊りで自身の考えと感じたことを表現する 道具を活用し多様な動きで表現する
美術活動で表現する	多様な美術活動を経験してみる	
	美術活動に必要な材料と道具に関心をもって使用する	
統合的に表現する	劇遊びで表現する	日常生活の経験を劇遊びで表現する
	統合的に表現する	芸術活動に参加し表現過程を楽しむ
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する	多様な音楽、踊り、美術作品、劇遊びなどを聴いたりする
		私と他の人の芸術表現を大切にすること
	伝統芸術を鑑賞する	我が国の伝統芸術に関心を持つ

○4歳

ア. 内容体系

内容カテゴリー	内容
美しさを探す	音楽的要素を探索する
	動きと踊りの要素を探索する
	美術的要素を探索する
芸術的な表現をする	音楽で表現する
	動きと踊りで表現する
	美術活動で表現する
	劇遊びで表現する
	統合的に表現する
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する
	伝統芸術を鑑賞する

イ. 細部内容

内容カテゴリー	内容	細部内容
美しさを探す	音楽的要素を探索する	多様な音、音楽の強弱、速さ、リズムなどに関心を持つ
	動きと踊りの要素を探索する	動きと踊りの形、力、速さなどに関心を持つ
	美術的要素を探索する	自然と事物の色、形、質感などに関心を持つ
芸術的な表現をする	音楽で表現する	歌で自身の考えと感じたことを表現する
		昔の童謡を楽しく歌う
		リズム楽器を演奏してみる
		簡単なリズムと歌を即興的に作ってみる
	動きと踊りで表現する	身体を利用して周辺の動きを自由に表現する
		動きと踊りで自身の考えと感じたことを表現する
		道具を活用し多様な動きで表現する
	美術活動で表現する	多様な美術活動で自身の考えと感じたことを表現する
		協同的な美術活動に参加する
		美術活動に必要な材料と道具を多様に使用する
劇遊びで表現する	日常生活の経験や簡単な話を劇遊びで表現する	
	小道具、背景、衣装などを使用し協同的に劇遊びをする	
統合的に表現する	音楽、動きと踊り、美術、劇遊びなどを統合して表現する	
	芸術活動に参加し表現過程を楽しむ	
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する	多様な音楽、踊り、美術作品、劇遊びなどを聴いたり観たりする

		私と他の人の芸術表現を大切にする
	伝統芸術を鑑賞する	我が国の伝統芸術に関心を持つ

〇5歳

ア. 内容体系

内容カテゴリー	内容	
美しさを探す	音楽的要素を探索する	
	動きと踊りの要素を探索する	
	美術的要素を探索する	
芸術的な表現をする	音楽で表現する	
	動きと踊りで表現する	
	美術活動で表現する	
	劇遊びで表現する	
	統合的に表現する	
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する	
	伝統芸術を鑑賞する	

イ. 細部内容

内容カテゴリー	内容	細部内容
美しさを探す	音楽的要素を探索する	多様な音、楽器などで音楽の強弱、速さ、リズムなどを探索する
	動きと踊りの要素を探索する	動きと踊りの形、力、速さなどを探索する
	美術的要素を探索する	自然と事物で色、形、質感、空間などを探索する
芸術的な表現をする	音楽で表現する	歌で自身の考えと感じたことを表現する
		昔の童謡を楽しく歌う
		リズム楽器を演奏してみる
		リズムと歌を即興的に作ってみる
	動きと踊りで表現する	身体を利用して周辺の動きを自由に表現し楽しむ
		動きと踊りで自身の考えと感じたことを表現する
		多様な道具を活用し創意的に動かす
	美術活動で表現する	多様な美術活動で自身の考えと感じたことを表現する
		協同的な美術活動に参加し楽しむ
		美術活動に必要な材料と道具を多様に使用する
劇遊びで表現する	経験や話を劇遊びで表現する	
	小道具、背景、衣装などを使用し協同的に劇遊びをする	
統合的に表現する	音楽、動きと踊り、美術、劇遊びなどを統合して表現する	

		芸術活動に参加し創意的に表現する過程を楽しむ
芸術鑑賞をする	多様な芸術を鑑賞する	多様な音楽、踊り、美術作品、劇遊びなどを聴いたり観て楽しむ
		私と他の人の芸術表現を大切にする
	伝統芸術を鑑賞する	我が国の伝統芸術に関心を持ち親しむ

